

## 武蔵野市第五期長期計画・調整計画策定委員会（第3回）

### 1. 開会（午後6時58分）

（議事に先立ち、企画調整課長から、委員1名が本日欠席、副市長の井上委員は体調不良のため9月30日付をもって退任し、当面は1名欠員の9名体制で進行する旨、報告があった。）

### 2. 議事

#### （1）武蔵野市の将来人口推計について

（企画調整課長が、資料1「武蔵野市の将来人口推計」に基づいて武蔵野市における総人口、年齢3区分（年少人口、生産年齢人口、老年人口）、高齢者の単独世帯を中心とした世帯数、平成22年度の推計との比較についての概略を説明した。）

【委員長】 グラフや指標によると、全体の人口は横ばいで、高齢者の世帯と人口が増える分、年少者が横ばいというところに問題が見えてくるような気がします。

それでは、委員の皆さんからご意見を頂戴します。

【A委員】 高齢者が増加するということですが、お元気な高齢者が多い。また、今後、年金の支給開始年齢が引き上げられるとすると、注目すべきは団塊の部分です。70歳以上の高齢者の5歳刻みの年齢区分がどう推計されているかを教えてください。

日本全体では生活保護が非常に増えていて、その半分以上は高齢者世帯です。ひとり親世帯の子どもの貧困も問題になっています。推計では生活保護や社会保障のことも考えなければいけないので、生活保護関係のデータを、わかる範囲で教えてください。

【企画調整課長】 老年人口の詳細データを持っているのですが、細かい分析ができておりませんので、後日ご報告します。

生活保護世帯は、現在のところ横ばいから少し下がっています。老年の単独世帯は、30年後には現在の1.73倍と予想しており、今後生活保護費が増える可能性があると思います。

【B委員】 III「人口推計の枠組」の1の④に「純移動率は将来にわたって不変とした」とありますが、移動要因はどう反映されるのですか。武蔵野市は今後、相続が問題になってくると思います。今いる人たちがこのまま年をとったり、子どもが生まれたりすると、こういう数字になるという話なのでしょうか。

【委員長】 同じ観点で、武蔵野市の税収に占める税源の様子について教えていただきたい。資産課税の状況など、税収との絡みで武蔵野市の特徴が出ると、今後の考え方に関連してくると思います。

【企画調整課長】 人口推計は、国立社会保障・人口問題研究所などで多く使われるコーホート要因法

を用いています。200 世帯以上の大規模マンション等開発は考慮しましたが、武蔵野市では、桜堤の後の大規模開発は今のところないと見ていまして、そのほかの人口の移動は、統計的にも大きな変化はないとして、今回は考慮していません。

【総合政策部長】 武蔵野市の税収は、市民税が大きな割合を占めているというのは、前回もご説明したとおりです。平成 25 年、26 年ともに納税義務者の 5%強の方が全所得割額の税金の 3割を占めており、高額納税者の率が高いという特徴があります。

他市との分析はしておりませんが、武蔵野市は高齢者が所得税を納めている割合が比較的高いと思っております。所得税をお支払いいただいている階層で一番多いのは 50～59 歳、40～49 歳で、その後が 60～69 歳です。若年層より高齢層に税金をお支払いいただいています。

【C委員】 日本全体では、今後 30 年間の前期高齢者と言われる 65～74 歳の人口割は余り変わらず、75 歳以上がふえると予測されています。武蔵野市は、前期高齢者の割合がふえ、その後に後期高齢者がふえるという形でピークがシフトするようですが、75 歳以上の方は要介護状態になりやすく、今後の介護需要の見積もりに大きく影響します。一方、65～74 歳は、これまで非生産としてきましたが、今後潜在的な可能性を持つ層でもあることを考慮しながら、統計的に数値化したほうがよいというご提案をさせていただきます。

【企画調整課長】 団塊の世代と言われている人たち（65～69 歳）は 2014 年で 3613 人、75 歳が 2379 人、2025 年は 75 歳以上がふえて、2033 年は団塊の世代のピークがさらに少し減る形です。後期高齢者、前期高齢者をもっと細かく分析して、お示したいと思えます。

【副委員長】 データの中から何を読み取って、それをどう計画に反映させていくのかがこの策定委員会のミッションだと思います。生産年齢人口があまり極端な減少をしていないというところに大変安心いたしました。これからは元気な高齢者も増えていくのかもしれませんが、やはり高齢化率がアップすれば、介護あるいは医療費等もかかってくるのが予測できます。

また、子どもがあまり多くなならないところを計画にどう反映するかですが、日本は、諸外国に比べて若い人に社会保障費をあまり配分しない国として有名です。武蔵野市は、スタートライン（どういいう経済状況の家に生まれたか）でその子の将来まで決まってしまうようなやり方、社会保障費の配分にするのかどうかということを、前回の長計でも少し議論したほうがよかったのかなと思っていました。生産年齢人口があまり減少しないからといって、楽観的な計画は立てられません。武蔵野市はお金持ちなんだからこれぐらいいいでしょうではなくて、計画で優先順位をシビアに決めていくことも必要です。

【総合政策部長】 副委員長ご指摘の事項は非常に重要で、武蔵野市では、貧困の連鎖を断つというのが今後の議論の課題になると思っております。

【D委員】 我々は、これを将来のお金の配分などを考える材料にすればいいんでしょうけれども、市は、我々の勉強のためだけにこういうものを毎年つくっているのですか。市は市で独自に、これをもとに計画をつくっていくということを考えていらっしゃるのかどうなのか。この資料は一体何のためにつくられたのですか。

保育所に関して言えば、前回の人口推計の数字は出ていたけれども、結局数が足りないということがありました。これは、そのときの長期計画や調整計画の委員に全て丸投げされていたのですか。

前回の人口推計と実際の人口の動き、その違いのグラフは、手元で見られる資料の何ページですか。

**【企画調整課長】** 子どもプランは独自に推計しましたが、高齢者福祉計画、障害者計画など庁内のさまざまな計画でこの人口推計を参考にしています。また、学校教育計画、学校施設整備基本方針の検討のほか、今後つくるものも、この人口推計を参考にします。調整計画策定に合わせたタイミングで、市民アンケートやニーズ調査も実施しております。

前回の長期計画を合わせた数字を見るには、ポイントだけをまとめて議会に行政報告した資料がありますので、後刻お送りします。

**【委員長】** これ自体は、人口問題のいろいろな施策を閲覧するときの根幹で、とても大事なものです。その施策の中に、副委員長が指摘されたような漏れが出てくるとまずいので、総合政策部長がおっしゃるように、市民の意見を反映しながら、よりよいものにしていただければと思います。

**【C委員】** 人口推計に関して、地域格差をどう考えるかも重要です。武蔵野市は比較的小さい自治体ですので、格差というほどのものはないかもしれませんが、ある団地では高齢化が進んだり、子どもが多くて保育ニーズが一時的に高まったりといったイレギュラーな配分が想定される地域を整理しておくといいと思います。

## (2) 市民会議報告書について

(企画調整課長が、資料2「第五期長期計画・調整計画市民会議報告書」に基づき、5回にわたる市民会議で出された意見を、キーワードを中心に紹介した)

**【委員長】** まず、市民会議委員のお2人に、お話をいただきます。

**【B委員】** 市民会議は、年齢や世帯の構成、職種、さまざまな背景を持った方が参加して意見を出し合いました。関心の中心は、コミュニティをどうつくるかに置かれていたと思います。中でも、外国人が交流の対象でありながらコミュニティの一員として長期計画には入っていないこと、また、縦や横のつながりをどうするのか、それを施策としてどうつくっていくのかということが、皆さんの各テーマにおいての関心でした。

**【D委員】** 市民会議は5回で6分野をこなすという非常に忙しい日程で、意見は出ても、議論には至りませんでした。その部分が、19 ページからの「市民参加のあり方」に色濃く出ています。無関心層からの意見聴取の仕方、市がどうアピールしていくかということや、こういった場で発言をするのは、もともと強い意思があって出てくる人たちなんだから逆に意見が偏ってしまうのではないかという意見が出ていました。今後、私たち調整計画の委員会が、市民からどのように意見を聞いていくのかに思いを向けなければいけないと思っています。我々が設定する会議に来てもらうだけではなくて、市民の意見を聞く会に出てこれない方々のところに我々が出向いていくという発想も必要ではないかという意見

もありました。そこは今回の策定方式の中で、検討し、変更していくことがあってもいいのかなと思っています。

もう1点は、我々は14万市民の1人、ほんの10人ですから、市の施策を全て知っているわけではありません。話していく中で、「市では既にやっています」ということが幾つもあって、そのたびに感謝することもあれば、アピールが足りないのではないかとということもありました。

あと、課長の報告の中で、8ページの市議会のところについて、これは私が言った意見ですので、そこだけ補足します。コミュニティ構想の中で、できることならばいろんな政策提言をしていくべきだということがありました。もちろん選挙で選ばれた市議会議員の方たちは重要ですが、我々市民1人ひとりが、議員並みとは言わなくても、政策提言をしていくことが重要で、そうすることで我々が求める市議会という形が変わっていくのではないかと意見を伺わせていただきました。

**【委員長】** お気持ちはよく伝わります。民主主義の根幹にかかわるところで、恐らく市民会議の皆さんの集約されたところが出てきたのだろうと思います。

**【副委員長】** 情報提供の仕方をどうするかは本当に難しいと改めて思いました。市はかなり手を尽くして市民へ情報提供しているはずなのに、届いていない。そこをどう埋めるのかは、今後調整計画を書く上でも大分影響を受けるのかなと思っています。

私たち策定委員が、もっとわかりやすい言葉とか伝わりやすい表現とか、伝わりやすい方法を工夫していけないといけないのかなと、改めて身につまされた感じがしました。

**【A委員】** 今回初めて参加させていただいて、この市民会議の報告書を今後どんなふうに使わなければいけないのかが正直見えないので、ご説明いただきたい。

情報提供の件は、今は情報があふれているので、自分が必要でないと思えば誰も耳をかさないのは当たり前で、どんなに一生懸命書いたって、この長計の全文を読む人はほとんどいません。必要なときに必要な情報が伝わればいいので、長計という大きな市民の枠のものがあって、それが自分の身の回りで起こったことに対して何かつながりがあるということを伝える、その市役所と市民とのつながりをつくる仕組みが今、弱いということが問題になっているのかなと思いました。

**【企画調整課長】** この市民会議の報告書は、今後討議要綱あるいは計画案を書いていただくにあたり、市民意見として参考にしていただく1つになります。

市民からの意見については、関係団体との意見交換会、圏域別市民意見交換会があり、参考にしていただければと思います。

**【D委員】** 第1回策定委員会で副委員長は、今回の調整計画の策定委員会に入って、五長がどうなっているかを知りたいとおっしゃった。市民会議でも、つくりっ放しにしているからだめなんだ、その後この計画で市政がどう変わっていくのか、市民1人ひとりが関心を持たなければいけないという意見が出ていました。副委員長も、ぜひいろんなことを発信していただければと思います。

### (3) 第五期長期計画事業実施状況について

(企画調整課長が、資料3「事業実施状況一覧表」をもとに、幾つかの事業をポイントのみ説明した。)

【委員長】 項目が膨大で、短い時間では議論し切れないのですが、ご意見をお話しいただければと思います。

【D委員】 この資料は、市のホームページに公開することは可能ですか。この先、討議要綱も含めて考えていくときに、市民の側は長期計画の進みぐあいがあるのかが非常に気になりますので、こういう資料はとても助かります。子どもプランでもこういう一覧を出しているの、それに合わせる形でやっていただくといいと思います。市民会議の中でも、実際にその施策をやってきてどうなったのかがないと検討できないという意見が多々出ていました。

「実施状況」を示す記号は、もっとわかりやすくしてください。○がついていても、よく見ると終わっていない。◎(完了)となっているものは、どの程度到達したのか、その指標が欲しいです。

「実施状況区分」は、できれば毎ページに入れてください。何度も1ページ目に戻って見直すことになりますので、ホームページに公開の際、ご検討いただければと思います。

【企画調整課長】 策定委員会資料のホームページでの公表は、早急に対応します。

第3回の策定委員会の提出資料は、見やすい方法を考えます。

【委員長】 歴史資料館が◎(完了)になっていました。他市の状況も見て相当検討されたと思います。私は若干関心がありますので、簡単にご説明いただけますか。

【企画調整課長】 歴史資料館は、公文書館機能と古文書館機能、博物館機能、埋蔵文化財・民俗資料展示機能の4つの機能をあわせ持った施設で、市民スペースもあります。12月のオープンを目指して今、準備を進めています。

【委員長】 府中は国府があり、宝物を持っていますし、福生、小平など近隣の市にも歴史遺産があります。図書館の相互利用のように、武蔵野市という枠を超えて共同利用できれば、大きな視野で武蔵野全域を見られると思います。

【E委員】 運営はどなたがやっているのですか。

【企画調整課長】 直営です。

【E委員】 学芸員は採られたのですか。

【企画調整課長】 もともと1名いて、準備段階でさらに2名採用しました。

【B委員】 子育て支援のうち、待機児童対策と保育園の増設は、どこかで評価していますか。市立保

育園も子ども協会もストップしているということですか。

市民会議でも話題になった外国人について、6「都市・国際交流の推進」に、外国人に関する視点の政策がないという意見がありました。それは柱としてここに追加することができますか。

【企画調整課長】 ここでは実施状況ということで、評価までは入っていません。子どもプラン策定の中に、第三次子どもプランの事業評価として保育園が入ってくると思われます。11月に中間まとめと聞いております。

多文化共生、外国人との協働は、現在の長期計画には記載が多くないので、事業としては載っていません。調整計画の中で、五長の範囲内でどう書き込むかを皆さんでご議論いただきたいと思っています。

【C委員】 27年度に関する評価は、あくまでも実施状況で、事業評価ではない。この場合は、計画等を策定し、かつ予算措置等を基本的に見込んでいるという意味で実施状況区分が○になっているのでしょうか。将来的なことでも現段階で○にした根拠をお伺いします。

【企画調整課長】 あくまでも「予定」で、継続しているものは○になっています。これから政策的判断をするものは、来年度予算が固まらないと書けないのですが、タイトルに「検討」「推進」とあるものは○となるのが現状です。

【副委員長】 この資料をどう使っていくか、企画調整課のほうで何かイメージをお持ちですか。

【企画調整課長】 この資料は、五長の進捗がおこなわれている事業を見るのが主な目的ですが、思ったよりも何らかの形で手がついているという感想を得ています。11月下旬から、各所管に、今後の調整計画に盛り込みたい課題を調査し、それとリンクさせた形で論点を明確にしていきたいと思っています。

【委員長】 その部分が抜け落ちていきますと、策定委員会そのものが意味をなさなくなりますので、大変重要な指摘だと思います。

【総合政策部長】 ○は、完全に終わっているということではありません。皆さんのほうから進行状況を聞いていただき、不十分であれば調整計画の中に再度盛り込んでいただくことになると思います。

#### (4) 市政の課題

- ・「武蔵野市財政援助出資団体の見直しに関する基本方針」及び「武蔵野市財政援助出資団体在り方検討委員会報告書」について
- ・「武蔵野市公共施設再編に関する基本的な考え方」について

(総合政策部参事が、資料4「武蔵野市財政援助出資団体の見直しに関する基本方針」について及び資料5「武蔵野市財政援助出資団体在り方検討委員会報告書」の目次と21～25ページの一覧のうち主なものについて、また、資料6「武蔵野市公共施設再編に関する基本的な考え方」について説明した。)

【委員長】 非常に重要な問題を2つに大きく分けてお話をいただきました。

最初に、財援団体系在り方検討委員会報告では、武蔵野らしさを特徴づけている対象団体が15あり、そのうちの幾つかを統合して効率化を図っていく。中長期に見るものと、短期に見るものとも区別されている。

公共施設の再編も、武蔵野市はお金持ちと、たびたび言われるのですが、基金が減って市債がふえており、健全な財政とは言えないところにこれからの大きな問題がある。この調整計画策定委員会は、長期の半分のところを見直すことで、第六期、第七期につながるぐらいの長期ビジョンにかかわります。また、総務省から公共施設等総合管理計画をつくれという要請や、国は税源を地方に移すという考えがあるのかどうか、そのあたりも踏まえて、武蔵野市としてお答えいただければと思います。

【E委員】 最も関心のある話題です。財団とか財援団体を見て私が一番気になったのは、彼らにもうひとつ頑張ってもらう機会を与えないのかということです。統合や自立を促すことを考えておられますが、体力があるところと、あまりないとみなされているところとがあります。体力があるところは存続させ、そうではないところは、自分たちの存在意義を見直して、強化していく機会を与えたほうがいいのではないか。

そのときに私がすごく気になるのは、人事の問題です。市からの派遣職員と市のOBは、どういう役職についているのか。頑張らなきゃいけないポストに市のOBがいたりするのです。市のOBの能力が低いとかいうことを言っているわけではないんです。頑張らないことがあり得るので、そういうところを具体的に見ることができるのか、個別にお聞きすることができるかどうかをお伺いします。

固有の価値みたいなものがあるからこそ財援団体としてやってきたのですから、似ているからとか、体力がないからではなくて、頑張る機会をどこかで与えられないか。随意契約や指定管理者の特命指定のような部分は、一回公募にしろとまでは言いませんけれども、甘やかすことなく、もっと手を入れてもいいのではないかと思います。

【総合政策部長】 職員については、各団体の成長度合いによって市の関与を変えています。例えば、新しい団体は、一定のガバナンスができた段階で、市からの職員の派遣を解除します。説明にあった社会福祉法人武蔵野は、当初は大量に職員を派遣しておりましたが、今派遣している職員は1名です。

ラストチャンスに関しては、委員会でご議論をいただく内容かと思えますけれども、我々も、だめだから統合するとかいうことではありません。人事異動によって職員の経験値を高めるという意味もあって、統合を提案させていただいています。

【E委員】 ほかの自治体を見ていると、施設管理だけを民間にして、ソフトの部分は、地元をよく知る財援団体が、より能力を高めてやっていくという分け方があるような気がします。施設管理は割とパターン化できるし、意外と民間の強いところではないかと思えます。個別の事業ではなく、全体として施設管理を別に出すということは、お考えにならなかったのですか。指定管理者の問題に限らず、そうすることによってソフトが際立って、存在意義がはっきりするような気がします。

【総合政策部長】 指定管理施設が平成27年に一斉に5年間の指定管理期限を迎えることから、ことしの夏前に、コミュニティセンターを含め、次の指定管理について全部検討しました。施設管理と事業を分けることも検討し、貸し館業務をやっているだけの施設、事業を一緒にやっている施設など幾つか

の属性に分けて議論を重ねた結果、施設があつてこそその事業ではないかという考え方をとりました。例えば、体育館は施設をうまく利用しながら事業を組んでいます。管理と事業を切り離すのは効果的ではないという判断です。

貸し館だけのところについても、指定管理で公募したほうがいいのか、財団としたほうがいいのか、利用者のモニタリングなども参考に具体的に検討しましたが、現状の管理について批判的なものはあまりなかったことから、あえて変えることのリスクは避け、現在の管理運営団体に任すことに決めました。ただし、指名による指定管理は絶対ではありません。将来的には、公募あるいは競争による指定管理があり得ることを伝えてあります。

**【委員長】** 私も社会教育委員会の議長の時、プレイスの答申を出すに当たって指定管理者について皆さんとさまざまな議論をした覚えがあるので、事情はよくわかります。今のE委員のご指摘も、部長のお話も、継続的にチェックしていかなければならない問題だろうと認識しております。

**【A委員】** サービス水準を適正にするとアウトソーシングを検討するとかいう方向性は書いてあるのですが、いつまでにこれをやるのかという具体的な期限が全然書いていない。それがないと実効性が低いのではないのでしょうか。

**【総合政策部参事】** まずは、市案の方向性を実現するにあたり、各団体の課題を、市も入って検討する必要があるため、現時点では、期間をお示しできていません。

**【企画調整課長】** この方向性について、討議要綱の中に論点として盛り込みたいと思っておりますので、それが決まってから本格的に各団体が動き出すこととなります。

#### (5) その他

(企画調整課長が、資料7「今後のスケジュール」をもとに、非公開の各部ヒアリング、市議会議員との意見交換会等の日程を確認した。

**【副委員長】** 討議要綱をつくるにあたって、また分野ごとの形にするのですか。その場合、チームをつくるのか、全員で全部の分野をフォローしていくのか、事務局はどんなプランを立てていますか。

**【企画調整課長】** チームでやる場合は、1分野に2人ずつで、後方にワーキングがつく形ですが、各分野に1人の委員でとっております。公募市民会議からの2名の委員と副市長は、個別の分野ではなく、全体を見ていただきたいと思ひます。委員長には総括していただきます。

**【E委員】** 市民はサービスを比較できません。目の前のサービスがいいか悪いかは判断できても、ほかの地域では同じサービスがどう充実しているのかはご存じない場合もあるので、市民が満足していればそれでオーケーかという問題もあります。サービスをどう高めていくかは非常に重要です。



【委員長】 施設の視察や比較を通して市民に知らしめていくことも大切だと思います。

【企画調整課長】 地域生活環境指標では、行政の基本サービスを近隣比較していますので、ぜひごらんいただければと思います。

【委員長】 それではこれで第3回の策定委員会を終了します。

閉会（午後9時20分）